

令和3年度学校評価について

令和4年1月24日

| | | | |
|----------|--|---|---|
| 本年度の重点目標 | | <p>1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上</p> <p>2 自立と社会参加を促す教育活動の推進</p> <p>3 「笑顔」のある安心・安全な学校づくり</p> <p>4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進</p> <p>5 センター的機能の充実</p> <p>6 仕事の効率化、勤務時間の適正化を図る</p> | |
| 項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価結果と課題 |
| 小学部 | 学ぶ楽しさや他者と関わることの楽しさを感じながら、主体的に活動に取り組む児童を育てます。 | <p>1 児童が安心して活動に取り組めるよう、保護者や関係機関と連携して支援します。</p> <p>2 学習のねらいに応じて、学年や学ぶ場の異なる友達と、ともに学べる場を設けます。</p> | <p>1 本校とBS学級を同時双方向型通信でつないだ学習は、随時行いました。2月に行われる第2回石ヶ瀬小学校との交流も、オンラインで実施予定です。</p> <p>2 病状等により登校が難しい児童2名に対し、家庭の協力を得てオンライン授業を実施しました。家庭にいる児童の学習保障はもちろんのこと、学校にいる児童にとっても友達と学びを深める場となりました。</p> <p>3 今後も、教員同士の学び合い等によるオンライン授業スキルの向上が求められます。</p> |
| 中学部 | 基礎的・基本的な学力の習得を確実にを行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気付き、個性の伸長を図り、他者とよりよい人間関係を築く力を養います。 | <p>1 生徒の学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。</p> <p>2 ICT機器を活用し、校内教育、BS学級、施設内教育学級で同時双方向型通信を使った授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。</p> <p>3 集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験を、多くの生徒ができるよう支援します。</p> | <p>1 生徒の入院予定や学習状況を把握し、個別学習と集団学習を実態に合わせて組み合わせ、生徒の実態に応じた学習しやすい環境づくりをすることができました。</p> <p>2 部集会や道徳の授業でICT機器を活用するなど、集団で学び合う環境と対話的、協働的な活動の充実に努めたことで、生徒の主体的な発言や学び合いの姿勢の育成につなげることができました。</p> |
| 高等部 | <p>1 各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し、改善を進めます。</p> <p>2 自己実現を目指し、集団の一員として生きる力を身に付けます。</p> | <p>1 生徒一人一人の実態を的確に把握し、高等部職員全体で取り組むべき課題という共通認識をもち、授業力の向上及び適切な指導が実施できるよう、研修に努めます。</p> <p>2 挨拶や言葉遣い、他の生徒への思いやりなどを、学校生活の中で、人との関わり方を学べるように支援・指導します。</p> <p>3 集団での活動場面において、生徒の実態に応じた役割分担を明確にし、他の生徒との協働により、達成感や成就感を味わえるように指導します。</p> | <p>1 生徒個々の状況に応じて、部会の機会を利用して職員で情報を共有し、生徒に寄り添った支援を検討し、合意形成を図りながら支援及び指導をしました。支援内容を継続して検討する必要があるケースもありますが、概ね生徒にとってよりよい学習環境を整えることができました。</p> <p>2 令和4年度から実施される新学習指導要領の改訂に備え、教育課程の編成や評価方法の確認をすることができました。</p> <p>3 新型コロナウイルス感染防止のため、同時双方向型通信を利用し、授業のライブ配信や部集会、近隣の高等学校との交流などを実施することができました。</p> |
| 施設内教育 | 名大藤田中京 | 児童生徒が安心して学べるように、保護者及び医療機関等との連携を保ち、個に応じた指導の工夫と充実に努めます。 | <p>1 保護者、病院、前籍校等と協力し合って感染症対策を含めた学習環境を整え、児童生徒の実態に合わせた学習保障に努めます。</p> <p>2 児童生徒の進路の参考とするため、病棟に入院している高校生の学習状況について情報を収集し、進路指導に活用していきます。</p> |
| 訪問教育 | <p>1 児童生徒と心理的安全性を構築し、一人一人の実態に応じた授業を実施します。</p> <p>2 病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。</p> | <p>1 児童生徒の興味・関心や学習の状況、病状を的確に把握して授業を実施します。</p> <p>2 担当者間で、児童生徒の情報を共有し、児童生徒にあった目標・内容・方法を検討し支援をします。</p> <p>3 電話や病棟との連絡ノート等を活用し、病院等の関係機関との情報交換を積極的に行い、児童生徒にとって安心して活動できる環境作りに努めます。</p> | <p>1 児童生徒と心理的安全性を築き授業ができるように努めてきました。しかしながら、児童生徒の心理的安全性が急に変化することもあり、状態に応じ臨機応変に対応していくことが課題です。</p> <p>2 担当者間で児童生徒の情報交換を密に行い、多面的に実態を捉えることで、支援の内容や方法を担当者間で検討することができました。</p> <p>3 病棟等の関係者と積極的にコミュニケーションを図り、連携した支援ができるように努めてきました。しかしながら、お互いの立場や考えの違いから、まだ十分に連携した支援ができていない面もあるので、より一層の連携を進めていくための方略を検討することが課題です。</p> |
| 総務部 | 開校50年を記念してマスコットキャラクターを作成し、学校を盛り上げます。 | <p>1 広く児童生徒がマスコットキャラクター作りに参加できるような計画を立てて、進めていきます。</p> <p>2 マスコットキャラクターに親しみがもてるよう、キャラクターを取り入れた記念グッズを作成します。</p> | <p>1 本校や施設、訪問教育と広く連携をとってマスコットキャラクターの募集を行い、全部で34作品を集められました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、設置された投票箱に学級単位ごとに投票する形をとりました。児童生徒は真剣に考えて投票できました。</p> <p>2 募集したマスコットキャラクターの中から児童生徒の投票で選ばれた作品を文化祭で発表しました。美術科と連携をとり、マグネットなどのグッズに4種類デザインし、校内の児童生徒に配付しました。今年度転出した児童生徒につきましても、グッズを送付する予定です。決定したキャラクターは、次年度の学校案内やホームページ等にも掲載し、校外にも発信していく予定です。</p> |
| 教務部 | 新学習指導要領に沿った、主体的・対話的で深い学びを目指し、授業の充実を図ります。 | <p>1 自ら学習に取り組む態度や自分の考えを分かりやすく伝える力を養うため、タブレット端末を積極的に活用します。</p> <p>2 新学習指導要領における3つの観点の指導方法や評価の仕方について工夫していきます。</p> | <p>1 オンライン授業や協働学習用アプリを活用した授業の推進を図り、子どもの学習意欲の向上や学習保障に向けた取組の充実につなげることができました。教師の一層のICT機器活用のスキルアップを図り、授業改善を進めることが課題です。</p> <p>2 部別研修や教科会を通して、各教科のねらいや評価について研修や定期的な見直し、確認を行い、授業改善につなげました。</p> |
| 自立活動 | 児童生徒が自立を目指す上で必要な力は何かを教師とともに考え、主体的にその力を身に付けることができるよう支援します。 | <p>1 個別の指導計画を基に、個々の目標や活動内容が児童生徒の実態に適しているかを検討し、自己理解を深めたり、自己管理の力がついたりするような活動内容の工夫を行います。</p> | <p>1 保護者及び医療機関等との連携で、児童生徒の実態に合った個別の指導計画を作成し、それを基に担当者会で支援の共通理解を図ったことで、児童生徒が自己理解を深めながら自分の課題に対して主体的に取り組むことができました。</p> <p>2 自立活動の実施後には、ワークシート等を用いて、振り返る時間を設けることにより、児童生徒が成果を実感したり、今後の課題を考えたりすることができました。</p> |

| | | | |
|--------------|---|--|---|
| <p>生徒指導部</p> | <p>児童生徒一人一人を大切に、安心・安全に学校生活を送ることができるような学校づくりに努めます。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 外部講師による情報モラル教室を実施し、SNSの利便性と危険性に対する知識を高めていきます。 児童生徒会活動やあいさつ週間、部活動等、児童生徒が主体的に取り組むことができる活動を工夫し、実践していきます。 毎週、各部会で児童生徒の情報交換を行うとともに、年2回、児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。 | <ol style="list-style-type: none"> 児童生徒のSNS利用状況を把握するためのアンケートを実施し、各部の実態に合わせて、情報モラル教室を行いました。Zoomでの開催になったことで、校内だけでなく施設内教育の児童生徒も参加することができ、SNSの利用方法について考えるよい機会となりました。 児童生徒会役員が中心となり、全校集会の企画・運営をしたり、黙食が必要とされる給食の時間を少しでも楽しくできるように、児童生徒から募集したリクエスト曲を校内放送で流したりしました。また、文化祭では、本校創立50周年を記念して看板を製作したり、当日の司会進行を担ったりする等、創立50周年記念文化祭に花を添えることができました。児童生徒会役員は、どの企画も最後までやり遂げることで、達成感を味わうことができました。 各部会で児童生徒の情報交換を行い、「心のアンケート」の結果を職員間で情報共有することで、いじめの早期発見に努めました。 |
| <p>保健体育部</p> | <p>教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 感染症対策をしっかりと行う中で、家庭や病棟と連携を取りながら、日常の健康と安全に対する意識を高めます。健康的な生活習慣や食習慣の重要性を周知していきます。 医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 事故防止に努めるとともに、児童生徒個々に応じた緊急時の対応等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。 | <ol style="list-style-type: none"> 感染症対策として、登下校時の検温の実施及び給食前の健康観察、手洗いの励行及びマスクの着用の依頼、各教室へ消毒液を配付し、職員による消毒拭き取り作業を実施した。また、常時換気を行い、さらに教室内の二酸化炭素濃度を測定器で測り、その数値が高くなると換気を行うなど適切な学習環境の設定に取り組んだ。 学校管理下において、てんかん発作により生命が危険な状態である場合に、速やかな坐薬挿入が必要であることから、「てんかん発作時の緊急対応としての座薬の取り扱い要項」、申請用紙等を作成し、職員に周知した。 給食に異物混入したときに、適切な対応できるように異物混入マニュアルの見直しを行い、職員に周知徹底した。緊急時、フローチャート形式で迅速に対応することができるよう情報の伝達方法を整理した。 |
| <p>進路指導部</p> | <p>児童生徒の実態と児童生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。</p> | <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育ノートの活用やキャリアパスポートの系統的な運用等、キャリア教育の充実を図ります。 学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施し、情報の提供や進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 希望する進路先・居住地関係機関との連携を図り、情報提供することで児童生徒への理解を深めていただくよう努めます。 | <ol style="list-style-type: none"> 担任への配付により参考にする機会が増え、以前に比べて活用度が上がりました。キャリアパスポートの他校の使用状況は運用にばらつきがあり、引き続き系統的な運用が課題です。 事前アンケートの実施、ICTの活用等進路説明会の充実に努めました。 会議への参加や電話連絡を密にし、相談支援等との情報共有に心がけました。一部、進路決定に向けて情報共有に遅れが出てしまったので、さらに密に連絡をとっていくことが今後の課題です。 |
| <p>教育支援部</p> | <p>児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図ります。各関係機関との情報の共有化、連携の充実を図り、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 「医教連携セミナー」に代わる「夏のセミナー」を計画、実施し、地域の教育関係者に公開して、医療、教育、地域との連携を深めます。 セミナーや研修会の充実を図り、適切な支援につながる教職員の資質の向上を図ります。 | <ol style="list-style-type: none"> センター的機能の一環として、夏のセミナーを実施しました。名古屋大学医学部附属病院の医師による「小児がんの基礎知識と学校での配慮」に関する講演を開催しました。小児がんの基礎知識を深めることができ、小児がんの子どもへの支援や配慮に役立つ内容となりました。同時双方向型通信によるオンライン開催としたことで、県外を含め、より広い地域からの参加がありました。 外部の方や本校職員を講師として、夏の研修会を実施しました。関係機関との連携の仕方、オンライン授業に向けたツールの活用等、在籍する児童生徒の支援に役立つ校内支援を進めました。 地域の小中学校への巡回相談や各種研修会への協力等、関係機関と連携した活動を行うとともに、関係機関との情報交換に努めました。 |
| <p>教育情報部</p> | <p>GIGAスクール構想によるICTの環境整備を活用し、これまでの実践とICTの融合を図ることで、児童生徒、教師の力を最大限に引き出す取り組みを進めます。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一台タブレット端末を活用できるようにアプリケーションの精選をし、ハード面を整えます。 各端末でネットワークを円滑に使用できるように設定します。 対面とオンライン、さらにストリーミングを合わせたハイブリッド化した協働的な学びを展開します。 保護者と教師がICTでつながり、これからの情報社会を生きていく子供たちを見守りながら情報モラル教育の定着をはかります。 | <ol style="list-style-type: none"> 年間を通して児童生徒一人一台タブレットのハードやソフト、ネットワークなどの整備を行いました。コラボノートとタブレット端末の活用により、授業や文化祭発表など様々な場面で協働的な学習が広がりました。今後はGoogle for Educationを活用し、タブレット端末やデジタルを使用した分かりやすい授業などの新しい学びの形を提案していきます。 児童生徒のインターネット利用や情報モラルの実態調査をまとめ、情報モラル教室の内容に活かすことができました。今後、児童生徒、教師、保護者が協力して情報モラルの意識を高められるように、情報共有を進めていきます。 |
| <p>総合評価</p> | <ol style="list-style-type: none"> 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 児童生徒一人一台タブレットの整備を行いました。コラボノートとタブレット端末の活用により、授業や文化祭発表など様々な場面で協働的な学習が広がりました。新型コロナウイルス拡大により通学することが難しい児童生徒に対してICT機器を活用した同時双方向型通信を用いることで、学習の機会を確保することができ、学校としての対応の形が確立してきた。また、行っていく中で、リモート授業の指導技術が向上しました。 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか 昨年度から培ってきた、同時双方向型通信を利用して交流校と積極的に交流を継続したり、校外学習や職場見学等の行事においてもビデオ配信したり、現地に赴かなくても体験できることを積極的に行い、学習の機会を確保することができました。 「笑顔」のある安全・安心な学校づくりができたか 昨年度からの登下校時の検温や細やかな健康観察、手洗いの励行及びマスクの着用、職員による消毒拭き取り作業はしっかりと定着し、安全な給食環境など、保健体育部を中心に学校全体で感染症対策を徹底し、安全・安心な環境の確保に努めました。コロナ禍においても明るく、前向きに児童生徒への働きかけを心がけ、笑顔を絶やさない学校を確保することができました。 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 新型コロナ感染症対策を始め、入退院の際の配慮事項など、できる限りの情報を共有し、学校と保護者、各病院と連携をした教育活動の展開に努めました。訪問教育では、病院等の関係者と定期的に情報交換し、病棟との連携を図ることができました。 センター的機能の充実ができたか オンラインでの研修会を開催し、地域の医療関係者、病弱児が通う院内学級関係者への情報発信をすることができました。地域の小中学校への巡回相談や各種研修会への協力等、関係機関と連携した活動を行うとともに、関係機関との情報交換に努めました。 仕事の効率化、勤務時間の適正化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか コロナ禍だからこそ、職員の健康に留意し、適正な勤務時間の確保に務め、定時退校日の設定、毎日の施錠時間の厳守に努めた。コロナ禍で、開催が出来なかったこと、規模を縮小して行った経験を逆に生かし、行事や活動の効率を考えた見直しに努めています。施設内教育や本校での分散場所で同時双方向型通信を利用して行ってきた実績を生かして、今後も会議を、集合、遠隔のハイブリッド方式で行うことで時間の有効活用や出張費用の削減等、業務の効率化を図っていきます。 | | |

